

平成 27 年 網走市議会
地 方 創 生 総 合 戦 略 検 討 特 別 委 員 会 会 議 録
平成 27 年 10 月 19 日（月曜日）

○日時 平成27年10月19日 午後 1 時00分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
2. その他

○出席委員（7名）

委 員 長	平 賀 貴 幸
副 委 員 長	井 戸 達 也
委 員	金 兵 智 則
	田 島 央 一
	立 崎 聡 一
	永 本 浩 子
	松 浦 敏 司

○欠席委員（2名）

委 員	栗 田 政 男
	近 藤 憲 治

○委員外議員（1名）

副 議 長	佐々木 玲 子
-------	---------

○傍聴議員（2名）

小田部 照
川原田 英 世

○説明者

副 市 長	川 田 昌 弘
企画総務部長	岩 永 雅 浩
企画調整課長	高 井 秀 利

○事務局職員

事 務 局 次 長	永 倉 一 之
総 務 議 事 係	田 中 康 平

栗田委員、近藤委員の2名でございます。

本日の委員会ですが、網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略について御協議いただきたいと思います。

最初に、網走市まち・ひと・しごと総合戦略について説明を求めます。

○高井秀利企画調整課長 網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案に対しまして、広報あばしり8月号で実施した「私の提案」、9月8日から10月7日まで実施したパブリックコメント、本特別委員会、網走市と連携協定を締結している大学などから多くの御意見をいただきました。

いただいた御意見に対する各課の対応をもとに戦略案を作成いたしましたので御説明をさせていただきます。

配付いたしました資料のうち、意見の内容を戦略に反映させるべきと判断したものにつきまして網掛けであらわしております。

本日の説明につきましてはこの網掛けの部分についてのみとさせていただきます。

まず資料1をごらん願います。

本特別委員会からいただいた御意見であります。

一番目、金兵委員からの御意見ですが、素案13ページ下段、出産・子育ての負担の軽減のK P Iとして病後児保育数、病気の子どもの数を目標値にするのはいかがでしょうか、ということでここはK P Iを修正することといたしまして、基準値0人、目標値939人を基準値0カ所、目標値1カ所に修正したいと考えております。

次は、田島委員からの御意見で素案7ページ下段、若い世代を中心とした就業機会の拡充のK P Iで、高校卒業者市内就職率がわかりにくいとの御意見でありました。

ここはK P Iの指標名を修正することとし、高校卒業者市内就職率から高校卒業就職者市内就職率に修正したいと考えております。

続きましても田島委員からの御意見であります、素案全体的に目標期間が5年なのか1年なのかかわからないものがあるとの御意見であります。

原則5年後の総数を目標値とし、記載の対象項目の1年単位のものにつきましては、〇〇／年といっ

午後 1 時00分開会

○平賀貴幸委員長 ただいまから地方創生総合戦略検討特別委員会を開会いたします。

本日の委員会でございますが、欠席の届け出が出ております。

た記載にしたいと考えております。

続きましても田島委員からの御意見であります、素案14ページ上段、出産・子育ての負担軽減のKPI、子育てがしやすいと感じる割合の基準値56.4%はどのように設定されたのか、目標値は低いと感じるについてです。

質問の基準値56.4%はニーズ調査の結果でありました。

目標値の50%は、その前に行ったニーズ調査の結果が60%であったことから、減少した分を戻すような目標値にしておりました。

しかし、このKPIにつきましては目標値を60%から65%に修正したいと考えております。

資料1については以上です。

○平賀貴幸委員長 資料1の内容について質疑等ありましたらお願いしたいと思います。

特にございませんか。

○金兵智則委員 1点だけ御確認させていただきたいのですが、3番の5年か1年かというところで、1年単位のものについては〇〇／年というように書かれるということですが、対象項目が下に何点かあるのですけれども、これが1年単位のものになるということでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 金兵委員のおっしゃっており、これが1年に該当するものであります。

○金兵智則委員 理解させていただきます。

もう1点ですが、4番の子育ての目標値60%から65%ということで上昇ということを考えているようですが、もともと60%にするための施策を組んでいたというような理解なのですけれども、これを65%に変えたことにより、何か追加になった部分はあるのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 現在も新年度以降の政策検討会などで施策を検討していますが、ここには記載していないような内容で何かできないかということで検討している最中です。それも含めまして65%、5%をさらに倍にして10%をふやすという目標として65%を設定いたしました。

○金兵智則委員 理解させていただきます。

○平賀貴幸委員長 ほかがございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは資料1についてはこの程度で次、資料2以降について説明を求めます。

○高井秀利企画調整課長 次に、資料2-1をごらん願います。

関係機関からの御意見です。

網掛けしている2番目の日本経済研究所からの施策の方向性に対する御意見ですが、人口ビジョンでは金融機関との連携をうたっておりますが、戦略ではその点の記載がないという御意見であります。

まず資料2-2、A4版のカラーのものをごらん願います。

当初の戦略素案では、担い手についての記述がなかったことから、3章として戦略を遂行する主体、この赤字の部分を1章追加しようと考えております。

この章でそれぞれ主体となることに関して記載しております。

次に、資料2-3、A4縦型の資料になりますが、戦略素案では産業分野・教育分野・金融分野・公共分野それぞれが連携して取り組む具体的な施策がわかりにくかったため、また市の特徴的な取り組みが一目でわかるような図として連携する分野ごとをバブルであらわしました。

これを戦略の巻末に添付したいと考えておりましたが、15日開催の本部会議におきまして、バブルの配置する位置や大きさを改善する必要があるとの指摘があったことから、今回提出しております資料につきましては、このような形で添付したいと考えている予定ということで御認識いただき、この後控えております本部会議等までにはきちんとしたものを作りたいと思っております。

なお戦略上での金融機関との連携の記載ですが、素案の6ページ下段、U・Iターンの推進で資料に記載のとおり追加しようと考えております。

次に、A3の資料に戻りまして4番目、日本経済研究所からの施策の方向性に対する御意見ですが、輸出のKPIにホタテとサケのHACCP認定施設保有企業数を設定しておりますが、これを戦略本文でも記載してはどうかという御意見であります。

素案5ページ下段、国内外への販路拡大、販路拡大に向けた支援で資料に記載のとおり追加をしたいと考えております。

次に、資料裏面6番目、関西学院大学小西教授から施策の方向性についての御意見ですが、子育てしやすいと感じる割合の56.4%は低い、戦略からは強い問題意識は伝わってこないとの御意見です。

これにつきましては前段の田島委員からの御意見で説明いたしましたとおり、目標値を65%に修正して、市民満足度の向上に取り組んでまいりたいと考えております。

次、7番目、網走開発建設部築港課からの文言追加の御意見です。

素案10ページ上段の、マーケットの視点に立った観光客の誘致拡大、その下、広域連携による国外観光プロモーションの展開の文中に、港湾、クルーズ船の誘致、港オアシスを入れてはどうかとの御意見です。

これにつきましては資料に記載のとおり、観光客の利便性向上の最後に一文を追加したいと考えております。

次に、8番目、庁内本部会議で出されました具体的な施策に対する意見です。

素案5ページ中段の、中心市街地と網走川周辺におけるにぎわいの創出の文中に、国のかわまち支援制度の活用も視野に入れ、道の駅周辺に限らず、川向のモヨロ貝塚やエコセンター周辺までを含めた表現にしたほうがよいとの意見がありました。

これにつきましては、資料に記載のとおり戦略本文に追加し、素案の28ページ、想定される取り組みとしてかわまちづくりの計画の策定を追加したいと考えております。

資料2については以上でございます。

○平賀貴幸委員長 それでは資料2に関して質疑に入ります。

○永本浩子委員 図に出ている若者や女性を含めた起業化・事業化、新製品創出支援というところですが、東京農大は網走にとって大きな存在だと思います。日体大付属支援学校のことなど個別名称が出ていますが、できればこのところに農大との連携というものもきちんと入れられれば、網走としての特徴がより明確になるのではないかと思いますがいかがでしょう。

○岩永雅浩企画総務部長 まずこのチャートですが、これをつくった意図は先ほど課長が説明したとおり、産業・教育・金融・公共の連携をどう進めたらいいのかということを示したいというふうに思いました。

それからもう一つは、総合戦略を国に提出するわけですが、そのときにこの本文だけを読むとどこがポイントなのかということを読み取れないということがありまして、アイキャッチしていただくためにも網走は何を強調していくのかということを見せたいということがありました。

その中ではある程度のルールが必要ですので、ここに記載しているのは具体的な施策ですから、基本方針があり、講ずべき施策に関する基本的な方向性、

そして具体的な施策というふうになっています。そこに書いてあるものを落とし込んだということなので、そこに書いていないものを入れると、読み取る側としてこれはどこにあるのだということになってしまいます。

永本委員がおっしゃった点について、日体大はあるが農大はないという議論は内部でも出ていましたが、そこは具体的な施策に書かれていないのでということで、東京農大という表現は出てこないということでございます。

○永本浩子委員 具体的な施策のほうにも農大の存在をきちんと書いたほうがいいかと私は思っていました。

○岩永雅浩企画総務部長 総合戦略案の15ページをごらんいただきますと、基本目標のところで東京農業大学という表現は出てきます。

また、基本方針の中でも東京農業大学、日体大という形が出てきておりますが、先ほどの講ずべき施策、ステップの基本的な方向の中でも、東京農業大学との連携ということが本文では出てきますので、この中ではぱっと出てきませんが、これから次に読んでいただければ、東京農大というのは核になっているということは読み取れるかなというふうには考えています。

○永本浩子委員 そうですね。

ここにも載せるというのは難しいのでしょうか。

ぱっと見たときに、目を引いてもらうためのものですね。

いろいろな自治体が同じような内容で出す中で、網走の特徴をきちんとつかんでいただけてということが今回1番大事になってくるかと思いますが、その点はどうでしょうか。

○平賀貴幸委員長 一旦休憩します。

午後1時15分休憩

午後1時20分再開

○平賀貴幸委員長 それでは再開します。永本委員の質問に対する答弁から。

○岩永雅浩企画総務部長 具体的な施策の中で、表現についてはバランスの悪いところもありますし、東京農大が総合戦略の大きな柱といますか、核になっているのは間違いありませんので、その表現についてどのように扱うか検討させていただきたいと思います。

○永本浩子委員 よろしく願いいたします。

○平賀貴幸委員長 ほか。

○金兵智則委員 チャートについてですが、どこに網走市として力を入れていくかというのがわかりやすいということで、バブルの大きさもそういった意味では強弱をつけていくためにこのようにしていくのかなというふうに思います。

今後、これがもう少しわかりやすくなるということで変わっていくということでしたが、逆を言えば丸が大きいものに関しては優先順位が高い、そういった方向性で今後進んでいくというような理解を、これを見た段階でも間違いではないのでしょうか。

○岩永雅浩企画総務部長 バルーンの大きさについては明確なルールがありません。

国が何を求めているかというところを考えると、一つは人口減少を克服するという点。もう一つは地域経済を活性化させる。この2点を求めているというのが、地方創生を英語表記にしたものを直訳するとそのようになっているので、その二つが大事だというふうに思い、そこを網走はどのように表現しているのかということを見せたいというのが丸の大きな部分であり、いわゆるイメージに近いものかなというふうに考えております。

○金兵智則委員 ということは、国が力を入れている、求めているものに関しては丸を大きくしているという見方で今後それは継続していくと。

次つくり直すというか、わかりやすくしたときもそれはそういうことであって、丸が大きいからこれに力を入れ、より力を入れていくというようなイメージを、これを見てそう思うのはちょっと違うということではないでしょうか。

○川田昌弘副市長 例えば丸の小さいもので子どもの学力や体力など、小さいものには予算はかけないとかそういう意味ではなく、この地方創生の総合戦略上、今言った人口減少だと産業の振興という命題にそって、網走はここに柱を持ってやりたいと。

重要か重要でないかということではなく、その柱はどこに持つのかということをあらわしただけで、予算を優先するとかそういうことはありません。

逆に言えば、この部分でいけば福祉の部分や、そういう部分というのは案外出てこないというか、それは今回の総合戦略の一つの目標とするところというのは、通常の行政一般事務とはまた別に力を入れていきたい、柱にしていきたいという思いをかけないということですから、そこに視覚的に力を入れるところはここですという表記にしたのです。

予算の優先度とかそういうことはまたちょっと違う視点で、それは予算の議論になるのではないかとこのように考えます。

○金兵智則委員 おっしゃっていることは私も何となくわかるかなと思います。ただ、これを見た段階でそういうふうに思ってしまう人も、これが国に出すものなので、国が求めているものがこれだからこの方法でいいというのであれば、それはそれで構わないかなと思います。

ただ、これをぱっと見た段階でいけば、例えば先ほど副市長もおっしゃいました福祉の分野ですとか、子育てですとか、教育の部分が小さくなっているものについては、疑問に思う人がいてもおかしくないのかなというふうに思ったものですから、これがまたわかりやすく手直しされるということはどのようになるのか私には見えてきませんが、そのときに、これがこの丸の大きさというのはちょっとどうなのかなというのか、力を入れていくところ、入れていけないところという言い方ではないですが、よりなのか、そうじゃないのかというふうに見えてしまう可能性もあるのかなと思い、お話をさせていただきました。

○平賀貴幸委員長 そこはいろいろと受けとめていただきながら、また調整していただくことになるのだらうと思います。ほか、何かこの点について、資料2に関して何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

説明は以上だと思いますが、3以降についても概略の説明はいただけるのでしょうか。次の説明を引き続きお願いします。

○高井秀利企画調整課長 資料3-1をごらん願います。

パブリックコメントでいただいた御意見であります。御意見につきましては施策に対する要望が多く、戦略に対する御意見は少ない状況でありました。

また、子育て支援に関する意見を多数いただいたことから、それを抜粋し資料3-2の別紙として取り扱いを記載しておりますので、後ほどごらんいただきたいと思います。

3-1に戻りますが、戦略に記載するものとしたしましては、番号14-1 具体的取組に対する御意見で、U・Iターンの推進について御意見をいただきました。

日本経済研究所からの御意見でも説明いたしましたとおり、企業支援についての記載内容を追加した

いと考えておりますので、後ほどごらんいただきたいと思います。

14-5、具体的取組に対する御意見ですが、こちらは網走開発建設部築港課からの御意見で説明いたしましたとおり、港オアシスのエリア内にある施設を利活用したという内容を追加したいと考えております。

資料3については以上です。

資料4の「私の提案」でいただいた御意見ですが、こちらは戦略に対する御意見はなく、全て施策に対する要望であったため、今後の施策の参考とさせていただきますと考えております。

以上です。

○平賀貴幸委員長 それでは資料3と4について質疑に入ります。

なければ資料3並びに4についてはよろしいですか。

○松浦敏司委員 こういう形で意見が出てきているということは、それだけ市民の関心度が高い、そういう分野でこういう形で出てきていると思います。

そのような意味では、今回のこの計画とは別に今後、各課にこれが反映されていかなければならないというふうに思います。

その辺はどのように今後対応していくのでしょうか。

○岩永雅浩企画総務部長 総合戦略も今後5カ年どうしていくかということです。

それから今現在、各部と意見交換をしています。

政策検討会の内容も同じような取り扱いになっておりますので、この5カ年の中でこの内容も含めて、どのような取り組みができるのか、あるいはできないのかも含めて議論をしていくというふうに考えています。

○松浦敏司委員 わかりました。

ぜひそれは生かしていただきたいと思います。

以上です。

○永本浩子委員 私もこの資料を読ませていただき、育休退園のことがものすごく要望が上がっていることにびっくりしました。網走の場合、その後入れる保育園の枠があるにもかかわらず、これだけ声が出るということはそれなりの理由があるかと思います。

今回の地方創生に関することではないにしても、その根本原因というものを探り、対応していく必要があるのかなと思いましたがいかがでしょうか。

○岩永雅浩企画総務部長 福祉部にお聞きしたとこ

ろ、現在どうしてこのような問題が起きるかというところ、第2子以降を出産されるときに育児休暇をとると、親が家にいるので保育に欠けないというところになってしまうということです。

子育ての環境もずいぶん変わってきていますから、親はいるけれども保育園に預けたほうが子どもの成長のためにはいいという場面もあると思います。

そこについては、これまでも柔軟に対応してきていますが、一方で待機者がいた場合、どうするのかといったことがありますので、それを両方満たすというのはなかなか難しいところがあるということです。

そこについては今後どうしていくのかということで、政策検討会の中でも話題に出ておりますので、原課のほうで整理をしたいというふうに考えます。

○永本浩子委員 検討していただければと思います。

そういったお母さんたちの声も、これから気を付けて聞いていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○平賀貴幸委員長 ほかいかがですか。

○田島央一委員 資料4の「私の提案」ほかということで採用されたものはありませんが、意見の募集をかけるに当たり、あくまで戦略の修正やそれに対しての意見というつもりで、市のほうは市民の皆さんに提案を求めているのかと思います。戻ってきたものは要望ばかりになっており、この辺の意見の集約の仕方というのは的が得てなかったのか、市民に勘違いされてしまったのか、それとも総合戦略のベースを皆さん読んで、それに対して意見をくださいというような形ではなかったのかと、これを見て思いました。

例えば以前、意見交換会のときにもあまり分厚い資料を提示しなかったというのもありましたので、もしかしたら単純に地域の要望のような意見などが集まってきてしまったのかなという印象を持ちましたが、この辺に関して市の考え方、感想のようなものはありませんか。

○岩永雅浩企画総務部長 ある面、田島委員がおっしゃったように、この総合戦略案ができていない段階で「私の提案」を始めました。

その時には基本目標になるだろう、その頃はまだ検討する事項ぐらいのことだったのですが、その内容について、皆さんの関心のあることについて自由に提案してくださいというのをまちづくり懇談会の中でもお話をしました。

この中でも出てきており、同じ方だったりしますが、アクティブなシニアの活用をもっと考えるべきだというお話があり、まちづくり懇談会は時間が限られているので、そこであまり深く議論ができないので、ここに書いてほしいということで書いていただいたものがタイミングとしてはある。

もう一つは、パブリックコメントの分についてこちらの案が示されていまして、それに基づいた意見というところで少し温度差があったかなというふうに思いますし、「私の提案」の中でも少し長い時間行いましたので、これを見て書かれたという方もいらっしゃる、時間的なこと、タイミングで書かれる内容が違ってきておりますが、「やってくれ」というよりは「自分もやるので一緒にやろうよ」という提案が多かったように思います。そこは今後の具体的な取り組みの中で参考にさせていただければなというふうに考えています。

○田島央一委員 承知しました。

タイミングの部分もありましたが、やはりベースの資料がないと「ただこれをやってほしい」というような、なかなか総合戦略の修正までにはいかなかったということは認識いたしましたので、とりあえずは大丈夫です。

○平賀貴幸委員長 ほか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○平賀貴幸委員長 その他、何か追加で説明することがありましたら、理事者のほうで。

○高井秀利企画調整課長 今後のスケジュールについて若干御確認したいと思います。

このあと、今週金曜日に第3回の市民会議を午後6時から開催いたしまして、本日の特別委員会で御説明した同じ内容のことを市民会議でも御説明したいと思っております。

続けて27日火曜日、こちらの第10回本部会議を開催いたしまして、こちらで最終的な戦略を決定したいと考えております。

以上です。

○平賀貴幸委員長 日程について説明がありましたが、何か確認することは委員のみなさんありませんか。

○田島央一委員 本部会議が27日ということなので、そうすると一つにまとまったものが次の市民会議に出るような格好になるのでしょうか。

この資料をそのまま市民会議に提出するのでしょ

うか。

○高井秀利企画調整課長 市民会議までに素案を作り直すことはちょっと時間的に余裕がないので、同じ資料を使う予定であります。

○田島央一委員 承知しました。

このあとの手続というか、案がまとまった段階で道なり国なりという形で上げていくと思いますが、その辺のスケジュールがもしわかるのであれば教えていただきたいなと思います。

○高井秀利企画調整課長 オホーツク総合振興局のほうに戦略が完成した旨の報告をさせていただきまして、オホーツク総合振興局経由で内閣府に連絡が行くというふうに聞いております。

戦略が完成した時期というのは、市が完成したといった時期になりますので、ホームページ上等で公開した日時が完成した日ではないというふうに伺っております。ですから27日もしくはその何日後かまで、10月中に完成したということであれば、それが網走市の戦略の完成日になります。

○田島央一委員 完成した日は承知いたしました。

日にちは特段この日に提出するということはまだ決めていないのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 今のところまだ日にちは決まっておりませんので、オホーツク総合振興局と相談しながら進めたいと思います。

○平賀貴幸委員長 ほか。

その他委員の皆さんから全般的なことを含めて質疑あるいは確認したいことがありませんか。

何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

一旦暫時休憩いたします。

午後1時38分休憩

午後1時41分再開

○平賀貴幸委員長 再開いたします。

皆さんに種々御議論をいただきました。

この後、本部会議で正式な案が決定され、オホーツク総合振興局を経由し、国に対して理事者のほうが地方創生総合戦略を提出するということになります。

皆さんのさまざまな議論の中で、見直しを随時しながらやっていくという理事者の姿勢もよく見えたなというふうに思うところです。

今後の地方創生総合戦略検討特別委員会の持ち方ですが、一旦その成案が近々にできます。

それについての検証作業を行う、あるいは総合戦

略の修正が必要になる、そういった段階において、この委員会でまた議論をされることがあったり、あるいは委員の皆様からどうしてもここを総合戦略に盛り込むべきだという意見が出てきたり、そういったことがあるかもしれない、あるだろうというふうに思います。

そういったことを踏まえて、今後の委員会については必要がある場合に暫時開けるという形で、委員会をきょうは閉じますが、そのまま存続させて状況を見ながら委員会を開催し、議論をしていくという形にしたいと思います。それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは本日の地方創生総合戦略検討特別委員会はこれにて終了いたします。

大変長い時間にわたって御議論いただきました。

今後についてもさまざまな役割を求められる場面、この委員会にあるかもしれませんので、引き続きの御協力よろしくお願いいたします。

皆さんお疲れさまでした。

午後 1 時43分閉会
